

令和 3 年度 自己評価表

鳥取県立八頭高等学校

【中長期目標(学校ビジョン)】

- 1 主体的に学び、自分の言葉で表現できる生徒を育成する。
- 2 チームで取り組む経験を通し、互いの多様性を知るとともに自己有用感を高める。
- 3 地域連携の主体となり、地域に根ざした学校としての役割を果たす。

【今年度の重点目標】

- 1 授業に集中

① 高校生活や授業におけるマナーの徹底

② 全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的に A L や I C T に係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。
- 2 行事で団結・部活は熱中

① 本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティーを育むとともに、地域から信頼される学校作りを行う。

② 生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。
- 3 進路に挑戦

① 基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。

② 多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。

	具体的項目	令和 3 年度当初			評価結果(9 月)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 授業に集中	高校生活や授業におけるマナーを徹底する。	・98%の生徒が学校で定められたルールやマナーを守るよう心がけている。(生徒がルールやマナーを守っていると評価している保護者の割合は 98%、職員の割合は 99%)	・ルールやマナーを守るよう心がけている生徒の割合が 98%	・自律的にルールやマナーを守ろうとする八頭高生の育成を目指し、挨拶の重要性やマナーの遵守について粘り強い指導を行い、様々な機会を捉えて保護者の理解を図るとともに、生徒に対しては「伝わる」指導を行う。 ・学校評価アンケートの結果を分析し、教育活動の改善に生かす。 ・生徒保健委員会生活リズム調査を通年実施し、保護者との連携を図りながらルールづくりを進めるなどしてスマートフォンの長時間利用者の指導を継続する。			
	全教科で公開授業や研究授業を実施するとともに、積極的に A L や I C T に係る研修に取り組み、生徒の主体的な学びを支援する。	・AL 9 の視点をもとに生徒の活動や ICT の活用を積極的に取り入れ、延べ 15 名の教員が公開・研究授業を実施。 ・外部講師を招いて昨年 11 月に授業改革研修会を実施。示範授業と研究協議により、探究活動における「問いづくり」について見識を深めた。 ・昨年 11 月段階で 1 日あたりの学習時間は、1 年生 102 分、2 年生 91 分、3 年生 144 分。うち、1 年生 2 時間以上は 35%、2 年生 2 時間以上は 28%、3 年生 3 時間以上は 38%。6 月調査と比べて減少している。	・生徒の自宅学習時間が 1, 2 年生 90 分、3 年生 200 分 ・教員の ICT 活用力を向上させ授業に積極的に活用し生徒の理解向上の一助とする。 ・AL9 の視点を持って、全教科で公開授業を実施	・各教科で年に 2 回（6 月・10 月）に研究授業を実施する。 ・研究授業は、事後に合評会を実施し授業者・見学者の今後の授業改善につなげることを基本とする。 ・Google Workspace for Education、スタディサプリ活用等に係る研修を実施し、ICT の得意分野を教員が理解し、省力化を図るとともに、生徒の学習を補助するツールとしていく。 ・授業改革研修会を実施し、ICT に係るスキルの向上を図る。 ・各教科の ICT 係を 1 名決めて、情報担当教諭とともに ICT の有効活用について知識を深める。各係は、科会等で伝達を行う。その知識をスタディサプリの利用などにも広げ、課題や補習の省力化・生徒の学習時間の確保を図る一助とする。 ・定期的に自宅学習時間調査を行い、担任の個人面談や教科担当者の時宜を得た面談をとおして効果的な学習を支援する。			
2 行事で団結・部活は熱中	本校独自の活動を通して八頭高生としてのアイデンティティーを育み、地域から信頼される学校作りを行う。	・八頭高愛し愛され運動の参加者は、第 1 回（6 月）が 371 名、第 2 回（11 月）が 297 名、延べ人数 668 名であった。全校生徒数（767 名）に占める割合は 87% で、年度当初の目標値を大きく超えることとなった。 ・昨年度 1 年生の総合的な探究の時間より探究活動を実施。今年度より 2 年翠陵探究が開始。	・八頭高愛し愛され運動への参加者が各回とも全校生徒の 30%以上 ・探究活動(1・2 年生)をとおして、課題等に関する思考力や実行力が向上したと考える生徒の割合が 60%以上 ・探究活動(2 年生)をとおして、地域の理解が深まったと考える生徒の割合が 70%以上	・八頭高愛し愛され運動、中学生体験入学、翠陵祭八頭高ライフ体験等の諸行事や学校生活等の様々な場面において生徒が主体となって企画・実施に取り組むとともに、その方法を下級生に引き継ぐことができるよう指導を行う。 ・探究活動のプログラムの充実を図り、生徒が主体的に行動できる教材を開発する。 ・地域への理解を深めるため、キャリアパスポートの活用を充実させるとともに、アンケートを実施して生徒の意識、理解の変容を把握する。			
	生徒の悩みに的確に対処し、心身の健全な発達を促すとともに、学習との両立を意識した計画的・効率的な部活動運営を行う。	・86%の生徒（保護者 78%）は、八頭高は心身の悩みに関わる相談について適切に対処していると考えている。 ・感染症の影響で、高校総体等多くの全国大会が中止となった。少ない競技のなかで、全国大会に出場した体育コース生は 10 名（探究・総合コースは 23 名）であり、運動部活動において活躍するとともに、リーダーとして実績を残した。	・生徒の心身の悩みに適切に対処していると回答する生徒の割合が 85%、保護者の割合が 80% ・全国大会に出場した生徒数が 80 人	・日々の生徒観察や声かけ、hyper-QU の分析・検討会、個別面談、教育相談・特別支援委員会、教育相談係・保健係連絡会、人権教育 LHR 等を通して生徒の悩みを把握する。 ・教職員同士がコミュニケーションを密に取り合い、保護者との連携も図りながら生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。 ・教職員及び関係者がコミュニケーションを密に取り合い、随時協議し、保護者との連携も図りながら生徒が安心して充実した学校生活を送れるよう指導・支援する。 ・体育コース・類型のみならず、全校で特色ある行事を継続実施し、学習面、生活面の充実を図り、学校生活、部活動のリーダーとしての自覚を促す。			

	具体的項目	令和3年度当初			評価結果(9月)		
		現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 進路に挑戦	基礎学力の確実な定着に取り組むとともに、生徒の習熟度に応じた高い学力の育成を図る。	・進路を実現するために目標に向かって努力している生徒（11月）は、1年69%、2年76%、3年97%である。	・進路実現に向けて努力している生徒の割合が1年生70%、2年生75%、3年生95%	・進路指導のための事業や、各コース・類型、各分掌及び学年等の諸行事について、その意図・意義を生徒にしっかり理解させ実施することにより、視野を広げ、キャリアデザインにつなげていく。 ・キャリア教育全体計画に基づき、キャリア設計講演会、「大学生に聞く」講演会、長期休業中補習、勉強合宿、土曜自習・質問教室などの活動を通して進路選択と学力向上を図り、進路実現をより確かなものにしていく。			
	多様な進路に対応しながらも安易に妥協させず高い志望に挑戦させる。	・国公立大学志願者(10月)は、1年133名(4月113名)、2年135名(1年4月126名)、3年105名(1年4月126名)である。大学入学共通テスト受験者は130名(総合・探究コースの57.5%)であり、前年比13名減であった。国公立大学合格者数は40名、うち現役は29名。	・国公立大学合格者数が60人 ・大学入学共通テストの受験者数が150人	・生徒との個別面談等をとおして、1，2年生は進路志望の確立とその実現に向けてなすべきことを強く意識させ、目標に向けて自律的に行動できる態度を育成するとともに、3年生は決定した希望進路の実現に努める。 ・大学・学部・学問研究の充実によって、将来のキャリアを見据えた上で何を学ぶべきかを考えさせ、具体的な進路目標に向けて努力する態度を育成する。			

評価基準 A：十分達成 [90%] B：概ね達成 [80%程度] C：変化の兆し [60%程度] D：まだ不十分 [40%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]